

平成26年度病虫害発生予察予報第6号（9月）

平成26年9月3日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量
水稻（普通期稲）	いもち病（穂いもち） ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ 斑点米カメムシ類	平年並 平年並 多 平年並 平年並 少 平年並
カンキツ	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ 果樹カメムシ類	平年並 平年並 少 平年並 やや少
施設野菜類	ハスモンヨトウ タバコガ、オオタバコガ	やや少 平年並

I 気象予報（高松地方気象台 8月28日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞ 8月30日から9月29日

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月平均気温は平年並の確立50%です。降水量は平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は低い確率60%です。2週目は平年並の確率50%です。3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

＜確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	30	50	10
		降水量	40	40	20
		日照時間	30	40	30

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：8月30日（土）～9月29日（月）

1週目：8月30日（土）～9月5日（金）

2週目：9月6日（土）～9月12日（金）

3～4週目：9月13日（土）～9月26日（金）

II 病虫害発生予想

1 水稻（普通期稲）の病虫害

1) いもち病（穂いもち）

予想 発生時期：並／発生量：平年並

根拠

- (1) 巡回調査では全般的に少発生であり、発病程度も低かった。
- (2) 巡回調査では葉いもちは全般的に多発生であったが、発病程度の高いほ場は県東部以外では見られなかった。
- (3) 向こう1か月の気象予報では、降水量は少～平年並と予想されていることから、発生量は平年並で推移すると考えられる。

対策

- (1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら収穫前使用日数と周辺への飛散に注意しながら速やかに薬剤散布を行う。特に上位葉への発病が多いときは、穂いもちが増加する可能性が高いので注意する。

2) ツマグロヨコバイ

予想 発生時期：並／発生量：平年並

根拠

- (1) 巡回調査では発生面積は全般的にはやや少なめの発生であったが、県東部、中央部では密度の高いほ場も見られた。
- (2) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並、降水量は少～平年並と予想されていることから、発生量は平年並で推移すると考えられる。

対策

- (1) 周辺作物への飛散防止に努めながら薬剤防除を行う。

3) ヒメトビウンカ

予想 発生時期：並／発生量：多

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で多発生であり、県東部では密度が高いほ場も見られた。
- (2)向こう1か月の気象予報では、気温は平年並、降水量は少～平年並と予想されていることから、多発生で推移すると考えられる。

対 策

- (1)周辺作物への飛散防止に努めながら薬剤防除を行う。

4) セジロウンカ

予 想 発生時期：並／発生量：平年並

根 拠

- (1)巡回調査では県西部でやや多めの発生となっているが、他の地域では少～平年並の発生であった。
- (2)向こう1か月の気象予報では、気温は平年並、降水量は少～平年並と予想されていることから、発生量は平年並で推移すると考えられる。

対 策

- (1)周辺作物への飛散防止に努めながら薬剤防除を行う。

5) トビイロウンカ

予 想 発生時期：並／発生量：平年並

根 拠

- (1)巡回調査では全般的に少発生であり、県内、県下5カ所（四万十市、須崎市、南国市、香南市、安芸市）に設置している予察灯への誘殺も確認されていない。
- (2)向こう1か月の気象予報では、気温は平年並、降水量は少～平年並と予想されていることから、発生量は平年並で推移すると考えられるが、9月2日現在、岡山県、山口県など5県で注意報が発令されているので発生には十分注意する。

対 策

- (1)本虫は株元に生息するので、防除の際、薬剤が株元に十分かかるようにする。また、防除にあたっては周辺作物への飛散防止に努める。

6) コブノメイガ

予 想 発生時期：遅い／発生量：少

根 拠

- (1)巡回調査では全般的に少発生であった。

対 策

- (1)止葉を食害されると減収につながるので、成虫がほ場内に見られる場合は速やかに防除を行う。

7) 斑点米カメムシ類

予 想 発生時期：並／発生量：平年並

根 拠

- (1)巡回調査では全般的に平年並の発生であった。
- (2)向こう1か月の気象予報では気温は平年並、降水量は少～平年並と予想されていることから、発生量は平年並で推移すると考えられる。

対 策

- (1)ほ場内にカメムシがわずかでも確認される場合、斑点米の発生が予想されるので、出穂10日後及びその5～7日後に薬剤防除を行う。なお、薬剤防除の際には収穫前日数に注意して薬剤を選定し、周辺への飛散防止に努める。
- (2)ミナミアオカメムシは合成ピレスロイド剤の効果が劣るので、本種が発生しているほ場では他系統の剤による防除を行う。

2 カンキツの病害虫

1) そうか病

予 想 発生時期：並／発生量：平年並

根 拠

- (1)巡回調査では温州みかんではやや少なめ、中晩柑類では県中央部、西部で多発生であったが、全般的には平年並の発生であった。
- (2)向こう1か月の気象予報では降水量は少～平年並と予想されていることから、発生量は平年並で推移すると考えられる。

対 策

- (1)窒素過多にならないように肥培管理を行うとともに、降雨後の薬剤防除を徹底する。

2) 黒点病

予 想 発生時期：並／発生量：平年並

根 拠

- (1)巡回調査では温州みかんでは平年並、中晩柑類とも平年並の発生であった。
- (2)向こう1か月の気象予報では降水量は少～平年並と予想されていることから、発生量は平年並で推移すると考えられる。

対 策

- (1)枯れ枝、剪定枝を樹園地内に放置しない。
- (2)累積降水量、250mm～300mmを目処に薬剤防除を行う。

3) かいよう病

予 想 発生時期：並／発生量：少

根 拠

- (1)巡回調査では、温州みかん、中晩柑類とも少発生であった。
- (2)向こう1か月の気象予報では降水量は少～平年並と予想されていることから発生量は少発生で推移すると考えられる。

対 策

- (1)ミカンハモグリガの食害や、風ずれによってできた傷口が多いと発生が多くなるので、ミカンハモグリガの防除を行う。

4) ミカンハダニ

予 想 発生時期：並／発生量：平年並

根 拠

- (1)巡回調査では、温州みかんでは少、中晩柑類では県中央部でやや多めの発生であったが、全般的には平年並の発生であった。
- (2)向こう1か月の気象予報では気温は平年並、降水量は少～平年並と予想されていることから、発生量は平年並で推移すると考えられる。

対 策

(1) 薬剤抵抗性の発現を回避するため、同系統の薬剤の連用を避ける。

5) 果樹カメムシ類

予 想 発生時期：並／発生量：やや少

根 拠

(1) 巡回調査では、樹園地内での被害は見られていない。フェロモントラップへの誘殺も平年より少なめとなっている。

対 策

(1) 果樹のカメムシ類は成虫が樹園地に飛来し加害するため、薬剤防除は飛来確認時に行う。

(2) 薬剤防除は残効期間が長い合成ピレスロイド剤、ネオニコチノイド剤を中心に行う。

3 野菜類全般

1) ハスモンヨトウ

予 想 発生時期：並／発生量：やや少

根 拠

(1) フェロモントラップへの誘殺数は県下全域で少ない。

(2) 向こう1か月の気象予報では降水量は少～平年並と予想されているため、密度増加が考えられるが、現在の野外密度が低いいため、平年よりは少なめの発生量で推移すると考えられる。

対 策

(1) 施設栽培では開口部にネット被覆を行い、成虫の侵入を防止する。

(2) ジアミド剤の苗灌注による防除を行う場合、薬剤処理～定植までの期間を3日間程度確保する（薬剤が苗に吸収されていないと残効期間が短くなる）。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ（こうち農業ネット）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ① 病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ② 病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③ 病虫害発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病虫害 etc.

こうち農業ネットサービス※

・ 携帯電話を使った病虫害関連情報（どなたでも利用可能です）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info>（Iモード）

トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報（ezweb）

四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：(ヤフー)

- ① 病虫害発生予察情報（概要）

※ 閲覧は無料ですが通信料は別途必要となります